
空気がおいしい！

これは「田舎の醍醐味」です



柴田 恒義さん、祐子さん

秋田県出身

2004年 山形市「蔵王みはらしの丘」へ移住
蔵王連峰の眺め、空気のおいしさ、子どもたちの元
気な笑顔、温泉。この最高の環境に大満足です。

山形市の山形ニュータウン「蔵王みはらしの丘」
に移り住んで3年になります。

2人とも秋田県出身で、(恒義さんは)定年まで
東京の病院に勤務していました。東京では郊外のほ
うに住んでいましたが、土地が狭く、隣の境界まで
1置くらいしかないと、プライベートがなく、電
車に乗ればラッシュ、車に乗れば渋滞と、何のため
に生きているんだという疑問を持ち始め、歳をとっ
てからは都会にしようとは思わなくなりました。

定年後は、安住の地を求め、3回住まいを変えま
したが、「蔵王みはらしの丘」を訪れ、ここは蔵王連
峰のすばらしい眺めを望むことができ、周辺には自
然があり、すぐ近くには温泉もあり、この最高の環
境とこのまちの将来性を見込んでここに住もうと決
めました。

実際に住んでみると、蔵王連峰のすばらしい眺め
を望むことができ、朝の散歩の途中には近くの山で
「カモシカ」を見かけることなどもあり、このよう
なすばらしい環境の中、空気がとてもおいしく感じ
ます。こちらに住んでから東京に出かけることもあ
りましたが、都会が近づいてくると息苦しくなり、
今では東京には行けなくなってしまいました。空気
がおいしいということは、「田舎の醍醐味」でしょう
ね。

また、ここは若い世代の方が多く、子どもたちも
たくさん住んでいます。毎朝、家の前を通る通学途
中の小学生の子どもたちが、大きな声で「おはよう
ございます。」とあいさつをしてくださり、子どもた
ちから元気づけられる毎日です。

そして、すぐ近くには温泉もあります。(恒義さん
は)子どものころ足を痛め、東京で人工股関節の手
術をしましたが、東京の生活ではその痛みは取れま
せんでした。ところが、ここに住んで温泉に通うよ
うになってからは、不思議なことに痛みがまったく
なくなったのです。今はできる限りこの温泉に通う
ようにしていますが、これも楽しみの1つとなって
います。

今、興味を持っていることは、家の駐車場を工房
にして『揺れ枕』という介護にも使える枕を制作す
ることです。この枕は特許を取得しており、病院勤
務の現役時代に得た多くの経験や知識を活かした枕
づくりをライフワークの1つとしています。

枕を使用された方から、いびきをかかなくなった、
関節の痛みが取れたなど感謝のお便りをいただき、
田舎暮らしから生まれた枕がお役に立ち、生活の充
実感を味わっています。

「蔵王みはらしの丘」から望むすばらしい景色、
空気のおいしさ、元気な子どもたちの笑顔、温泉。
この最高の環境にとっても満足し、ここに住んでよか
ったと思います。



自宅前から望む蔵王連峰